

戦闘状態 (アクションポーズ)



水中巡航態勢



メガ粒子砲発射態勢



リアビュー



MSM-07 'Z'GOK'

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTION TYPE AMPHIBIOUS MOBILE SUIT

© 創通・サンライズ

MODEL NUMBER : MSM-07
 TOTAL HEIGHT : 18.4m
 WEIGHT : 65.1t
 TOTAL WEIGHT : 96.4t
 GENERATOR OUT PUT : 2480kw
 THRUSTER GENERAL OUT PUT : 83000kg
 MAX SPEED : 103kt
 MATERIAL : SUPER HIGH TENSION STEEL
 ARMAMENTS : CLAW ARM
 MEGA-PARTICLE GUN
 240mmROCKET



1/144 SCALE
HG
 UNIVERSAL CENTURY



BANDAI 1999 MADE IN JAPAN

写真の完成品は、塗装してあります。

COLOR GUIDE

- ※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
 - ※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 - 写真の完成品は、塗装してあります。
 - このキットを、よりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー等をお使いください。
 - ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。
- | | |
|--|---|
| ●本体： | ●蛇腹部、ダクト： |
| □ ホワイト (85%)
□ +パープル (10%)
□ +インディブルー (5%)
※または、ガンダムカラー
-バイオレット2 | □ インディブルー (70%)
□ +ネービーブルー (20%)
□ +パープル (10%)
※または、ガンダムカラー
-ブルー6 |
| ●モノアイ： | ●頭頂ミサイル部： |
| □ 蛍光ピンク (100%) | □ ニュートラルグレー (60%)
□ +ミディアムブルー (40%)
□ +レッド (少量) |
| ●腕、バックパック、腰、スネ等： | ●ツメ、コックピットハッチ： |
| □ 濃緑色 (70%)
□ +ティナグリーン (25%)
□ +ブラック (5%)
※または、ガンダムカラー
-グリーン5 | □ ホワイト (90%)
□ +ティナグリーン (5%)
□ +インディブルー (5%) |

MSM-07 "Z'GOK"

公国軍における水陸両用MSの開発は、宇宙世紀0079年2月の“地球侵攻作戦”の決定を待って着手された。初期の計画は06系の機体を改修して運用するというものだったが、MS-06Mザクマリンタイプは耐圧や装甲形状などのファクターからも実戦に耐え得るものではなかったため、全く新たな観点から水陸両用MSが開発されることとなった。「ズゴック」はMSM-03ゴッグなどの機体の実働データをもとに、第二期開発計画に基づいて開発された機体で、一年戦争における水陸両用MSの中でも屈指の名機と言われている。

SPEC

型式番号：MSM-07
 全高：18.4m
 本体重量：65.1t
 全備重量：96.4t
 ジェネレーター出力：2480kw
 スラスタ総推力：83000kg
 最高速度：103kt
 装甲材質：超高張力鋼
 武装：
 メガ粒子砲
 クローアーム
 240mmロケット弾

頭部ミサイル

水中発射も可能なミサイルを射出する。発射管はある程度の与圧もできたようだが、耐圧深度はさほど深くはなかった。基本的には上陸、あるいは浮上した上で射出する。

モノアイカメラ

インテーク

クロー

推進装置

基本的には機体各所に設けられたインテークから取り入れた海水を高圧で噴出するハイドロジェット及びロケット、またはウォータージェットによって航行し、これらのほとんどは陸上では高機動スラスタとしても機能する。超伝導電磁推進機を装備した機体もあったと言われているが、詳細は不明である。

メガ粒子砲

コクピットハッチ

ズゴックやアツガイなどのコクピットハッチは、昇降装置と強固なシーリングシステムを兼ねた構造となっている。

フレキシブル・ベロウス・リム

公国軍の水陸両用MSに特徴的な装備。通常型MSのマニピュレーターと違い、自由度の高い複数の関節で構成されている。機種によっては伸縮して、より抵抗の少ない航行形態をとれるものもある。

MSM-07 ズゴック

公国軍が開発した水陸両用MSは、空間及び陸戦用の標準的な機体と比べ、単純計算で2~3倍のジェネレーター出力を持っている。これは水冷構造などを取り入れた新たな冷却システムが開発されたことによって可能となったもので、ビーム兵器の搭載も比較的早期に達成された。ズゴックの開発はゴッグの直後に開始されたが、最終設計に当たってはゴッグの実働データをもとに多くの改良が施されたため、その分陸戦にも充分対応可能な完成度の高い機体となった。対MS戦闘においても、パイロットによってはザクを上回る実績を残している。



協力：ホビージャパン



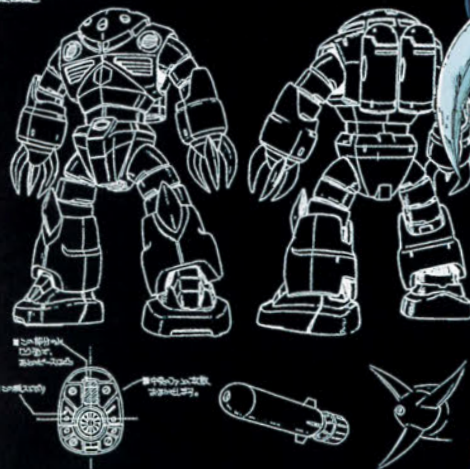
ズゴック

ズゴックを始めとする水陸両用MSの生産は、主にキャリフォルニアベースが担当しており、連邦軍の港湾施設の破壊や制圧、海上輸送路の寸断にも威力を発揮した。機体の多くは各地の潜水艦隊に配備され、強襲作戦や上陸作戦においても多大な戦果をあげている。また、ジャブロー攻略戦における隠密施設の発見や哨戒などにおいても水陸両用MSの果たした役割は大きく、公国軍が制圧地域を維持できたのも、これらの機体による功績とされている。大戦末期にはさらに高性能な機体もいくつか開発されたが、キャリフォルニアベースが奪回されてからは海上戦力の維持自体困難であったため、多くの潜水艦隊が投降したと言われている。その際、水陸両用MSは提案されている場合も多く、戦後連邦軍に接収された機体は決して多くはない。

MSM-07 Z'GOK (ズゴック)

ズゴックの単機当たりのスペックは、同時期に連邦軍が開発した量産型MSを上回るとされており、ビーム砲やミサイルの標準装備という点を除いても、その格闘能力は目を見張るものがある。特に特殊加工を施されたクローは、熟練者であれば一撃でジムクラスの機体の装甲を貫いたという。また、水陸両用MSは、地上においては展開や機動性に問題を抱えていた“MS”という兵器の「脚の短さ」を克服している点も無視できない。一説には無補給で地球を数周できるとまで言われているが、パイロットの負担を考えれば、数時間の稼働が限界であり、とても地球一周などおぼつかないだろう。それでも、その速度は単純に“潜航艇”または“船舶”として考えても驚異的なスピードであり、公国軍の水陸両用MSの完成度の高さを物語っている。

MSM-07 Z'GOK (Z'GOK)



▲メガ粒子砲 熱核反応炉の冷却に水冷構造を初めて採用したズゴックは、メガ粒子砲をボディ部分に装備していたが、ズゴックは腕部に装備することで、使い勝手を飛躍的に向上させている。

ズゴック デザインワークス

「ズゴック」のリニューアルデザインにおいては、全身のプロポーションや各ギミックの再現をはじめ、バックパックや足裏における水中用装備をイメージさせるディテールの追求、そして特徴的な手足の多関節をデザインを損ねる事なくフレキシブルに可動させられる事が重点的なポイントと言える。(コンセプトデザイン：カトキハジメ)

警告 (けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

《組み立てる時の注意》●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

注意 (ちゅうい)

- 縁部が鋭い箇所がありますので、注意してください。●先端が尖っている箇所がありますので、注意してください。●部品は番号を確かめ、きれいに切り取りましょう。●袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。



・接着をするところの線



・シールの番号



・デカールの番号



・反対側に取り付けるパーツ



・両側と同じパーツを取り付ける



・向きに注意して取り付ける



・ビスの締めすぎに注意



・切り取るところ



・部品を数値の個数作ります



・先に組み立てます



・後に組み立てます



・数値に合わせて回転させます



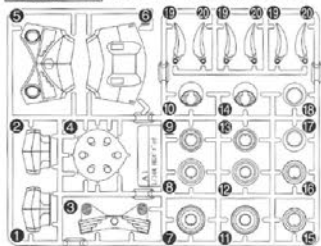
・どちらかを選んで取り付ける



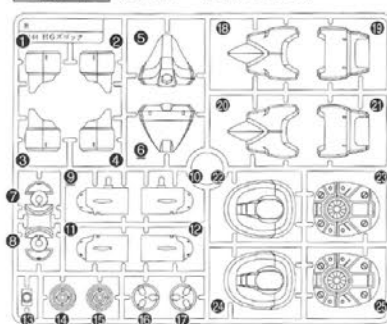
・反対側も同じように動かしませ

パーツリスト

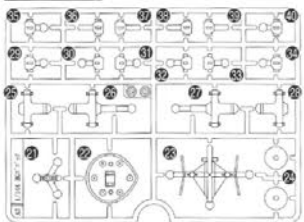
A1パーツ (スチロール樹脂: PS)



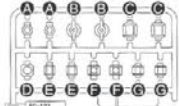
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



A2パーツ (ABS樹脂: ABS)



〈P.C-123〉 (ポリエチレン: PE)



●シール……………1

